

参考文献 『日本の時代史』第三〇巻より抄出

史料

- 『絵巻―蒙古襲来絵詞、絵師草紙、北野天神縁起』宮内庁三の丸尚蔵館 一九九四年
『扇絵―日本・中国・朝鮮半島―』和泉市久保惣記念美術館編 一九九〇年
『近江八景』滋賀県立近代美術館編 一九八八年
『行事絵』和泉市久保惣記念美術館編 二〇〇二年
『京の葵祭展』京都文化博物館編 二〇〇三年
『近世風俗画』1～5 狩野博幸編 淡交社 一九九一年
『近世風俗画』1～11 小学館 一九八二―八四年
『地獄遊覧―地獄草紙から立山曼荼羅まで―』富山県立山博物館編 二〇〇一年
『時衆の美術と文芸』時衆の美術と文芸展実行委員会編 東京美術 一九九五年
『社寺縁起絵』奈良国立博物館編 角川書店 一九七五年
『社寺参詣曼荼羅』大阪市立博物館編 平凡社 一九八七年
『女性と仏教』奈良国立博物館編 二〇〇三年
『神社古図集』正・続 臨川書店 一九八九―九〇年
『真宗重宝聚英』1～10 信仰の造形的表現研究委員会編 同朋舎 一九八七―八九年
『新修日本絵巻物全集』1～30 別巻1・2 角川書店 一九七五年
『中世荘園絵図大成』小山靖憲・下坂守・吉田敏弘編 河出書房新社 一九九七年
『東京芸術大学蔵品図録』絵画1 東京芸術大学編 一九八〇年
『東京国立博物館蔵品図版目録』やまと絵篇 東京国立博物館編 東京国立博物館 一九九三年
『日本絵巻大成』1～26 別巻 中央公論社 一九七七―八四年(続1～20 一九八一―八五年、続々・伝記・縁起
- 篇1～8 一九九三―九五年)
- 『日本荘園絵図聚影』1～5 東京大学史料編纂所編 一九八八―二〇〇二年
『日本の肖像』京都国立博物館編 中央公論社 一九七八年
『日本美術全集』全26巻 講談社 一九九〇―九四年
『日本屏風絵集成』1～17・別巻 講談社 一九七七―八一年
『仏教説話の美術』奈良国立博物館編 思文閣出版 一九九六年
『慕帰絵詞』宮崎円遵編『新修日本絵巻物全集』20) 角川書店 一九七八年
『慕帰絵詞』小松茂美編『続日本絵巻大成』4) 中央公論社 一九八五年
『松島町史』資料編1・2 松島町 一九八九年
『室町時代の屏風絵』東京国立博物館・国華社ほか編 朝日新聞社 一九八九年
『洛中洛外図大観』小学館 一九八七年(新装新訂版 小学館 二〇〇一年)
『洛中洛外図 都の形象』京都国立博物館編 淡交社 一九九七年

著書・論文

相澤正彦 「土佐光茂筆由原八幡宮縁起制作の周辺」平松全三先生古稀記念会編『日本の宗教と文化』同朋舎 一九八九年

「室町やまと絵師の系譜」『日本美術全集』12 水墨画と中世絵巻 講談社 一九九二年

『菅田宗唐縁起』の絵師とその画風』[MUSEUM] 527 一九九五年

『土佐光信』[新潮日本美術文庫] 2) 新潮社 一九九八年

赤井達郎 『絵解きの系譜』教育社 一九八九年

赤坂憲雄 「鹿杖考」『一遍聖絵と中世の光景』ありな書房 一九九三年

赤沢英二 「十五世紀における金屏風について」『国華』849 一九六二年

- 秋山光和「法隆寺絵殿の聖徳太子伝障子絵」『平安時代世俗画の研究』吉川弘文館 一九六四年
- 秋山光和・藤田経世『信貴山縁起絵巻』東京大学出版会 一九五七年
- 浅見和彦「王朝の「松島」、中世の「松島」」『成蹊国文』33 二〇〇〇年
- 安達啓子「月次風俗図扇面とやまと絵」『MUSEUM』511 一九九三年
- 網野善彦「史料論の課題と展望」『岩波講座日本通史』別巻3 史料論 岩波書店 一九九五年
- 「中世の堅田について」『年報中世史研究』6 一九八一年（のち『日本中世都市の世界』筑摩書房 一九九六年に再録）
- 有賀祥隆「新出「春日若宮曼荼羅図」雑感」『興福』120 興福寺 二〇〇三年
- 伊井春樹「寛仁二年頼通大饗屏風和歌とその場面」『詞林』9 一九九一年
- 家永三郎『上代倭絵年表』座右宝刊行会 一九四二年『上代倭絵年表』墨水書房 一九六六年の復刻
- 『上代倭絵全史』高桐書院 一九四六年『上代倭絵全史』墨水書房 一九六六年の復刻
- 池田 忍「平安時代物語絵画の方法―物語を呼び込む絵画の伝統を考える―」『日本美術全集』8 王朝絵巻と装飾経 講談社 一九九〇年
- 「逸翁美術館蔵「競馬絵」の紹介とその性格」『秋山光和博士古稀記念美術史論集』便利堂 一九九一年
- 「平治物語絵巻」に見る理想の武士像」『美術史』138 一九九五年
- 「ジェンダーの視点から見る王朝物語絵」『美術とジェンダー』ブリュッケ 一九九七年
- 「王権と美術」『日本の時代史』8 京・鎌倉の王権 吉川弘文館 二〇〇三年 a
- 「日本美術史と「女」」『歴史評論』634 二〇〇三年 b
- 石井 進「社会史の課題」『岩波講座日本通史』別巻1 歴史意識の現在 岩波書店 一九九五年
- 「鎌倉びとの声を聞く」『出版』二〇〇〇年
- 石川知彦「新羅明神像の種々相」科学研究費研究成果報告書『日本美術のイノロロジー的研究』一九九一年
- 「役行者像―岩座に腰掛けて坐るといふこと―」大阪市立美術館編『役行者と修験道の世界』特別展図録 一九九九年
- 石田尚豊「職人尺絵」『日本の美術』132 至文堂 一九七七年
- 泉 武夫『興福寺曼荼羅図』京都国立博物館 一九九五年
- 「美術史からみた荘園絵図」『中世荘園絵図大成』河出書房新社 一九九七年
- 泉 万里「祭礼草紙考」辻惟雄先生還暦記念会編『日本美術史の水脈』ぺりかん社 一九九三年
- 「中世屏風の雲母と金銀」『国華』1197 一九九五年
- 「月次祭礼図模本（東京国立博物館所蔵）について」『国華』1230 一九九八年
- 「壬生地蔵縁起絵巻について」『仏教芸術』268 二〇〇三年
- 板倉聖哲「唐宋絵画における夕・夜景表現―その素材との関わりについて―」『美術史』234 一九九三年 a
- 「日月と素材の関わりについて―金日・銀月の淵源を求めて―」『美術史論叢』9 一九九三年 b
- 一遍研究会編『一遍聖絵と中世の光景』ありな書房 一九九三年
- 井手誠之輔『日本の宋元仏画』『日本の美術』418 至文堂 二〇〇一年
- 伊藤大輔「明恵上人樹上坐像」の主題をめぐる考察」『美術史論叢』14 一九九八年
- 伊藤裕久『中世集落の空間構造』生活史研究所 一九九二年
- 稲賀繁美「《他者》としての「美術」と、「美術」の《他者》としての「日本」―「美術」の定義を巡る文化摩擦―」『美術史と他者』晃洋書房 二〇〇〇年
- 稲畑ルミ子「二元信」印「洛中洛外図帖」『奈良県立美術館紀要』10 一九九六年
- 稲本万里子「高野山曼荼羅の構造分析―聖と俗の境界―」『仏教芸術』201 一九九二年
- 「イメージ資料を読み解く歴史家へ―日本美術史の立場から―」『史潮』新33・34 一九九三年
- 井上研一郎「中世やまと絵考―和歌史料による画題の検討―」『美術史学』2 一九七九年
- 今岡英子「法隆寺旧蔵「聖徳太子絵伝」研究―その画面構成の特質について―」『哲学会誌』19 一九九五年
- 今谷 明「六角征伐／下剋上」『新修大津市史』2 中世 大津市 一九七九年
- 『室町幕府解体過程の研究』岩波書店 一九八五年
- 『京都・一五四七年―描かれた中世都市』平凡社 一九八八年

- 入間田宣夫「中世の松島寺」『宮城の研究』3 清文堂 一九八三年
- 「糠部の駿馬」『東北古代史の研究』吉川弘文館 一九八六年
- 「久慈・閉伊の驛馬」『中世東国史の研究』東京大学出版会 一九八八年
- 入間田宣夫・大石直正編『みちのくの都 多賀城・松島』『よみがえる中世』7 平凡社 一九九二年
- 上野記念財団助成研究会編『研究発表と座談会 一遍聖絵の諸相』同研究会 二〇〇三年
- 梅津次郎「日本の説話画」『日本の説話画』便利堂 一九六一年（のち『絵巻物叢考』中央公論美術出版 一九六八年再録）
- 『絵巻物叢考』中央公論美術出版 一九六八年
- 上横手雅敏「源頼朝像をめぐって」『龍谷史壇』106 一九九六年
- 江上 綏『扇面画（古代編）』『日本の美術』319 至文堂 一九九二年
- 絵解き研究会編集協力『一冊の講座 絵解き』有精堂 一九八五年
- 遠藤 一『慕帰絵詞』にみる死の作法』『戦国期真宗の歴史像』永田文昌堂 一九九一年
- 太田 彩『絵巻 蒙古襲来絵詞』『日本の美術』414 至文堂 二〇〇〇年
- 太田昌子『松島図屏風』『絵は語る』9 平凡社 一九九五年
- 「法隆寺絵殿本「聖徳太子絵伝」の語りの構造―太子絵伝研究序説―」『金沢美術工芸大学紀要』42 一九九八年
- 「障屏画にみる支配構造」『日本の時代史13 天下統一と朝鮮侵略』吉川弘文館 二〇〇三年
- 大西昌子「日本の初期水墨画史の再検討―画中画資料による―」『美術史』112 一九八二年
- 大西 廣「一休をめぐって何が起こったか―肖像画における『破格』の問題―」『人の（かたち）人の（からだ）』平凡社 一九九四年
- 大西廣・太田昌子「絵の居場所（一）（二）」『週刊朝日百科 日本の国宝 別冊・国宝と歴史の旅』1 12 朝日新聞社 一九九九年
- 大山昭子「修理報告 一遍上人絵伝」『修復』7 岡墨光堂 二〇〇二年
- 岡田譲「絵巻物にみる工芸品（I）―「慕帰絵詞」の場合―」[MUSEUM] 121 一九六二年
- 小川剛生「南北朝の宮廷誌―一条良基の仮名日記―」臨川書店 二〇〇三年
- 小川裕充「壁画における〈時間〉とその方向性―慶陵壁画と平等院鳳凰堂壁扉画―」『美術史学』9 東北大学 一九八七年
- 「北宋時代の神御殿と宗太宗・仁宗坐像について―その東アジア世界的普遍性―」『国華』1255 二〇〇〇年
- 荻野三七彦『日本古文書学と中世文化史』吉川弘文館 一九九五年
- 奥平俊六『洛中洛外図と南蛮屏風』『新編名宝日本の美術』25 小学館 一九九一年
- 小澤 弘「洛中洛外図」とは』『図説 上杉本洛中洛外図屏風を見る』河出書房新社 一九九四年
- 加須屋誠『週刊朝日百科 日本の国宝 別冊 国宝と歴史の旅』6 地獄と極楽』朝日新聞社 二〇〇〇年
- 『仏教説話画の構造と機能』中央公論美術出版 二〇〇三年
- 片桐弥生「図版解説 扇面画帖」『日本美術全集』13 雪舟とやまと絵屏風 講談社 一九九三年
- 勝俣鎮夫「一五―一六世紀の日本―戦国の争乱―」『岩波講座日本通史』10 中世4 岩波書店 一九九四年
- 勝盛典子「画帖形式の洛中洛外図について」『古美術』81 一九八七年
- 葛川絵図研究会編『絵図のコスモロジー』上・下 地人書房、一九八八―一九八九年
- 加藤秀幸「武家肖像画の眞の像主確定への諸問題―長谷川等伯筆武田信玄・伝名和長年像并伝足利尊氏・同義尚像について―（上・下）」『美術研究』345・346 一九八九―一九九〇年
- 金沢規雄「歌枕意識の変貌とその定着過程」『宮城の研究』5 清文堂 一九八三年
- 亀井若菜「表象としての美術 言説としての美術史 室町將軍足利義晴と土佐光茂の絵画」ブリュッケ 二〇〇三年
- 亀田孜ほか『仏教芸術』27・28 一九五六年
- 川島絹江「『承安五節絵』の諸本―模本五種の補遺を中心に―」『研究と資料』41 一九九九年
- 川端善明「日吉山叡山行幸記」岡見正雄博士還暦記念会編『室町ごろ』角川書店 一九七八年
- 川本桂子「土佐光茂の「牧馬図」について」『国華』124 一九九九年
- 川本重雄「正月大饗と臨時客」『日本歴史』473 一九八七年

- 鍛代敏雄 「中世都市史研究と「社会史」―その方法と現状―」『栃木史学』6 一九九二年
- 北澤憲昭 『「眼」の神殿』美術出版社 一九八九年
- 木下直之 『美術という見世物』平凡社 一九九三年（のち、ちくま学芸文庫 筑摩書房 一九九九年）
- 國原美佐子 「十五世紀の日朝間で授受した禽獣」『史論』54 二〇〇一年
- 熊倉敬聡・千野香織編 『女？ 日本？ 美？』慶應義塾大学出版会 一九九九年 a
- 黒田 智 「大織冠像の破裂と肖像」『年報中世史研究』23 一九九八年 a
- 「新羅明神と藤原鎌足」『仏教芸術』248 一九九八年 b
- 「もう一つの維摩像」『MUSEUM』579 二〇〇二年
- 黒田泰三 「新出の京洛名所風俗図扇面について」『デアアルテ』9 一九九三年
- 黒田日出男 『姿としぐさの中世史』平凡社 一九八六年 a
- 「境界の中世 象徴の中世」東京大学出版会 一九八六年 b
- 「熊野那智参詣曼荼羅を読む」『思想』740 一九八六年 c
- 「参詣曼荼羅と文芸―清水寺参詣曼荼羅の読解―」『国文学 解釈と鑑賞』52・9 一九八七年
- 「熊野観心十界曼荼羅の宇宙 宮田登編『性と身分』(『大系仏教と日本人』8) 春秋社 一九八九年 a
- 『絵巻 子どももの登場―中世社会の子どもの像―』河出書房新社 一九八九年 b
- 『王の身体 王の肖像』平凡社 一九九三年 a
- 『朝日百科 日本の歴史 別冊 歴史を読みなおす 10 中世を旅する人々―「一遍聖絵」とともに―』朝日新聞社 一九九三年 b
- 「守屋家本騎馬武者像の像主―(文学Ⅱ史料)としての『太平記』の記述から―」『東京大学史料編纂所研究 紀要』5 一九九五年 a
- 「絵巻の子ども家の子どもの」『春日権現験記絵』の子どもの姿から―』『図書』552 一九九五年 b
- 「歴史としてのお伽草子』ぺりかん社 一九九六年 a
- 「大英博物館本「源頼朝像」の制作時期について」『日本の美学』24 一九九六年 b
- 「日本史にとつての絵画と中世文学」『中世文学』43 一九九八年
- 「図像の歴史学」『歴史評論』606 二〇〇〇年 a (のち『増補 姿としぐさの中世史』平凡社ライブラリー 平凡社 二〇〇二年に再録)
- 『荘園絵図の解釈学』東京大学出版会 二〇〇〇年 b
- 『謎解き 伴大納言絵巻』小学館 二〇〇二年
- 『絵画史料で歴史を読む』筑摩書房 二〇〇四年
- 黒田日出男責任編集『週刊朝日百科 日本の歴史 別冊 歴史の読み方 1 絵画史料の読み方』朝日新聞社 一九八八年
- 『歴史学事典』3 かたちとしるし 弘文堂 一九九五年
- 黒田日出男編 『肖像画を読む』角川書店 一九九八年
- 小泉和子 『家具と室内意匠の文化史』法政大学出版局 一九七九年
- 「記号としての竹の縁と柱」『絵巻物の建築を読む』東京大学出版会 一九九六年
- 後藤昭雄 「寛仁二年藤原頼通大饗屏風詩」『平安朝漢文文献の研究』吉川弘文館 一九九三年
- 小林達朗 『絵巻 親鸞聖人絵伝』(『日本の美術』415) 至文堂 二〇〇〇年
- 五味文彦 『絵巻と時代性―富の風景―』『絵巻に中世を読む』吉川弘文館 一九九五年
- 『春日験記絵』と中世』淡交社 一九九八年
- 五味文彦・佐野みどりほか 『第十七回美術講演会講演録』鹿島美術財団 一九九四年
- 近藤好和 『次将装束抄』と源頼朝像』『明月記研究』2 一九九七年
- 齊藤研一 「足踏み洗い」から「手揉み洗い」へ―洗濯方法の変化に関する試論―』『絵巻に中世を読む』吉川弘文館 一九九五年
- 『子どもの中世史』吉川弘文館 二〇〇三年

- 榊原 悟 「サントリー美術館本『酒伝童子絵巻』をめぐる」『国華』1076・1077 一九八四年
- 『美の架け橋』ペリかん社 二〇〇二年
- 桜井英治 「御物」の経済―室町幕府財政における贈与と商業―『国立歴史民俗博物館研究報告』92 二〇〇二年
- 佐多芳彦 「中殿御会図考―現状に関する一試論―」『風俗』110 一九九二年
- 「中殿御会図の諸本と伝存関連資料」[MUSEUM] 506 一九九三年
- 「足利將軍若宮八幡宮参詣絵巻」の作期―服装史における中・近世移行期の資料として―『東京大学史料編纂所研究紀要』12 二〇〇二年
- 佐藤鉄太郎 『蒙古襲来絵詞と竹崎季長』權歌書房 一九九四年
- 佐藤道信 『日本美術』誕生（講談社選書メチエ）講談社 一九九六年
- 佐藤康宏 「絵は語り始めるだろうか」『月刊百科』363 一九九三年
- 「高雄観楓図論」『美術史論叢』16 一九九九年
- 「一遍聖絵」、洛中洛外図の周辺―科学研究費研究成果報告書『描かれた都市―中近世絵画を中心とする比較研究―』二〇〇四年
- 佐野みどり 『風流・造形・物語』スカイドア 一九九七年
- 佐野みどり・石井進 「対談 絵画をみる・絵画を読む―美術史と歴史学の語り口―」『歴博』34 一九九五年
- 澤田和人 「十徳の変遷―中世を中心に―」『美術史』147 一九九九年
- 「直裾の基礎的研究（上・下）」『仏教芸術』254・257 二〇〇一年
- 「鉢叩の装いと鉦叩の装い―服飾の記号性と造形―」『国立歴史民俗博物館研究報告』109 二〇〇四年
- 渋沢敏三・神奈川大学日本常民文化研究所編『新版絵巻物による日本常民生活絵引』平凡社 一九八四年
- 島尾 新 「柿本人麿像における「かたち」と「意味」―東京国立文化財研究所編『人のへかたち』人のへからだ』平凡社 一九九四年
- 「東山御物」随想―イメージのなかの中国画人たち―根津美術館編『南宋絵画』二〇〇四年
- 島尾新編『朝日百科 日本の国宝 別冊 国宝と歴史の旅』11 「天橋立図」を旅する』朝日新聞社 二〇〇一年
- 島田修二郎 「中国の絵巻」『中国の説話挿絵について』『中国絵画史研究』中央公論美術出版 一九九三年
- 島谷弘幸 「足利尊氏願経」古筆学研究所編『古筆学叢林』2 古筆と写経 八木書店 一九八九年
- 島本流・岸文和編『絵画の探偵術』昭和堂 一九九五年
- 『絵画のメディア学』昭和堂 一九九八年
- 清水 健 「根津美術館本那智瀧図試論―制作環境を中心に―」『美術史学』20 一九九九年
- 清水真一 『校倉』『日本の美術』419 至文堂 二〇〇一年
- 下坂 守 「参詣曼荼羅」『日本の美術』331 至文堂 一九九三年
- 『描かれた日本の中世』法蔵館 二〇〇三年
- 職人歌合研究会「七十一番職人歌合 職種一覽」『七十一番職人歌合・新撰狂歌集・古今夷曲集』『新日本古典文学大系』61 岩波書店 一九九三年
- 真保 亨 『慕婦絵詞』『日本の美術』187 至文堂 一九八一年
- 杉森哲也 『描かれた近世都市』『日本史リブレット』44 山川出版社 二〇〇三年
- 鈴木敏三 『初期絵巻物の風俗史的研究』吉川弘文館 一九六〇年
- 「承安五節絵考」『国学院大学大学院紀要』6 一九七五年
- 鈴木杜幾子・千野香織・馬渕明子編『美術とジェンダー』ブリュッケ 一九九七年
- 鈴木廣之 「国民国家イデオロギ―と日本美術史（上・下）」『月刊百科』409・411 一九九六―一九九七年
- 砂川 博 『中世遊行聖の図像学』岩田書院 一九九九年
- 砂川博編『一遍聖絵の総合的研究』岩田書院 二〇〇二年
- 関 周一 「唐物の流通と消費」『国立歴史民俗博物館研究報告』92 二〇〇二年
- 瀬田勝哉 『洛中洛外の群像』平凡社 一九九四年
- 仙海義之 「歓喜光寺本「一遍聖絵」の絵画表現について―御影堂本との比較から―」『美術史』149 二〇〇〇年
- 高岸 輝 『室町王権と絵画』京都大学学術出版会 二〇〇四年
- 鷹巣 純 「めぐりわたる悪道―長岳寺本六道十王図の図像をめぐる―」『仏教芸術』211 一九九三年

高橋康夫『物語ものの建築史 建具のはなし』鹿島出版会 一九八五年

『洛中洛外―環境文化の中世史』平凡社 一九八八年

瀧尾(塩出) 貴美子「絵巻における「場面」と「景」」『美術史』111 一九八二年

武田佐知子編『一遍聖絵を読み解く』吉川弘文館 一九九九年

武田早苗・大伏春美「研究 現状と展望」『和歌文学論集』5 屏風歌と歌合 風間書房 一九九五年

武田恒夫「瑞峯院堅田の間襖絵考」『日本美術工芸』564 一九八五年

武田恒夫・片桐弥生「新出和様扇面画帖について(上・下)」『国華』1024・1025 一九八九年

田沢裕賀『女性の肖像』(『日本の美術』384) 至文堂 一九九八年

田島智子「道長の画題選択―寛仁二年頼通大饗屏風「臨時客」と「大饗」―」『日本文学史論』世界思想社 一九九七年

谷 信一『室町時代美術史論』東京堂 一九四二年

谷 知子「文治六年任子入内屏風と和歌」『玉藻』36 二〇〇〇年

玉蟲敏子「大徳寺瑞峯院「堅田間」襖絵の研究」『国華』1206 一九九六年

近本謙介「春日をめぐる因縁と言説―貞慶と『春日権現験記絵』に関する新資料―」『金沢文庫研究』302 一九九九年

千々和到「仕草と作法―死と往生をめぐる―」『日本の社会史』8 生活感覚と社会 岩波書店 一九八七年

千野香織「滋賀県立近代美術館蔵・近江名所図屏風の景観年代論について」『日本絵画史の研究』吉川弘文館 一九八九年

年

「言葉とイメージ―物語絵画研究の現在―」『列島の文化史』7 一九九〇年

「春日野の名所絵」『秋山光と博士古稀記念美術史論文集』便利堂 一九九一年

「南北朝・室町時代の絵巻物―新しい光のなかで―」『日本美術全集』12 水墨画と中世絵巻 講談社 一九九二年

年

「障屏画の意味と機能―南北朝・室町時代のやまと絵を中心に―」『日本美術全集』13 雪舟とやまと絵屏風 講談社 一九九三年

「土地が描かれることの意味―滋賀県立近代美術館蔵「近江名所図屏風」再考―」『建築史の回り舞台』彰国社

一九九九年

千野香織・西和夫『フィクションとしての絵画』ペリかん社 一九九一年

千野香織・藤井恵介ほか「記念シンポジウム 絵画史料をどう読むか―建築史と美術史の立場、そして共通の視点―」

『建築史学』19 一九九二年

趙 善美「朝鮮王朝時代肖像画の類型及び社会的機能」『美術研究』374 二〇〇二年

辻 成史「イコノロジーその後」『日本美術工芸』647 一九九三年

「イメージ・リーディング再考―那智参詣曼荼羅によせて―」『金沢美術工芸大学紀要』42 一九九八年

辻 惟雄「永徳の三上山真景図について」『美術史学』2 一九八〇年(のち『戦国時代狩野派の研究』吉川弘文館 一九九四年に再録)

一九九四年に再録)

「真景」の系譜―中国と日本(上・下)―『美術史論叢』1・3 一九八五・八七年

「上杉家本洛中洛外図再考―今谷氏の説に対して―」『国華』1105 一九八七年

辻惟雄監修『カラー版日本美術史』美術出版社 一九九一年

辻惟雄ほか『岩波 日本美術の流れ』1―7 岩波書店 一九九一―一九九三年

帝国競馬協会編『日本馬政史』1 帝国競馬協会 一九一八年

東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学日本画研究室編『よみがえる日本画』東京美術 二〇〇一年

東京国立文化財研究所編『語る現在、語られる過去』平凡社 一九九九年

徳田和夫『絵語りと物語り』平凡社 一九九〇年

戸田禎佑「一遍上人絵(清浄光寺・歓喜光寺本)の画風を巡って―宋画風と写実性―」『MUSEUM』511 一九九三年

『日本美術の見方―中国との比較による―』角川書店 一九九七年

百橋明穂「集合画像の形成―東京国立博物館蔵諸尊集画像をめぐる―」『仏教美術史論』中央公論美術出版 二〇〇〇年

年

中村興二・岸文和編『日本美術史を学ぶ人のために』世界思想社 二〇〇二年

難波田徹『中世考古美術と社会』思文閣出版 一九九一年

- 並木誠士「酒飯論絵巻と狩野元信」『美術史』137 一九九五年
- 「日本美術史研究の現在」『芸術学を学ぶ人のために』世界思想社 一九九九年
- 檜崎宗重「笹間家扇面画帖」『国華』845 一九六二年
- 成瀬不二雄『日本絵画の風景表現』中央公論美術出版 一九九八年
- 西 和夫「近江堅田の湖上関―その位置と施設に関する絵画史料等による検討―」『歴史と民俗』4 一九八九年(のち『建築史研究の新視点』1 中央公論美術出版 一九九九年に加筆再録)
- 西山 克『聖地の想像力』法蔵館 一九九八年
- 西 弥生「密教修法と」巻数二『古文書研究』58 二〇〇四年
- 根立研介「重源をめぐる肖像観」『京都大学文学部美学美術史学研究室研究紀要』20 一九九九年
- 野口 剛「東京国立博物館蔵「月次風俗図屏風」について―扇面画との関連を中心として―」『美術史論叢』6 一九九〇年
- 野場喜子「慕帰絵詞」の陶磁器』『名古屋博物館研究紀要』13 一九九〇年
- 萩原 哉「頭上に仏面をいただく千手観音像―日光山中禅寺波之利大黒天堂所蔵の千手観音立像をめぐる―」『青山史学』21 二〇〇三年
- 服部英雄「犬追物を演出した河原ノ者たち―犬の馬場の背景―」『史学雑誌』111-9 二〇〇二年
- 林雅彦ほか「特集」『絵解き』『国文学 解釈と鑑賞』47-11 至文堂 一九八二年
- 平田英夫「神域の月の風景―中世神祇歌の表現史―」『日本文学』51-9 二〇〇二年
- 藤田一尊「平安朝屏風歌の史的考察―屏風歌作例年表・改訂版 十一世紀中葉まで―」『日本文学論集』21 大東文化大学 一九九七年
- 藤本正行『鑑をまとう人々』吉川弘文館 二〇〇〇年
- 藤原重雄「絵巻のなかの《伊予簾》」『月刊百科』407 一九九六年
- 「行事絵・名所絵としての最勝光院御所障子絵―法金剛院とのかかわり―」『美術史』146 一九九九年
- 「行列図について―鹵簿図・行列指図・絵巻―」『古文書研究』53 二〇〇二年
- 「仏画のなかの肖像画・覚書」『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』32・34-37 二〇〇六-〇七年
- 藤原良章「絵画史料と《職人》」『中世的思惟とその世界』吉川弘文館 一九九七年
- 藤原良章・五味文彦編『絵巻に中世を読む』吉川弘文館 一九九五年
- ノーマン・ブライソン(佐藤康宏訳)「言説、形象―言葉とイメージ」第一章『美術史論叢』16 一九九九年
- 文化庁監修『国宝高松塚古墳壁画』中央公論美術出版 二〇〇四年
- 星山晋也「吠えかかる犬―一遍聖絵 中の二つの点景から―」『美術史研究』19 一九八二年
- 保立道久『中世の愛と従属』平凡社 一九八六年
- 「日本中世社会史研究の方法と展望」『歴史評論』500 一九九一年
- 「絵画史料の歴史学的読み方」『絵巻物の鑑賞基礎知識』至文堂 一九九五年 a
- 「絵巻に描かれた文書」『絵巻に中世を読む』吉川弘文館 一九九五年 b
- 『物語の中世』東京大学出版会 一九九八年
- 『中世の女の一生』洋泉社 一九九九年
- 堀川貴司『瀟湘八景』臨川書店 二〇〇二年
- 松原 茂「慕帰絵と筆者たち」『西本願寺展』図録 東京国立博物館 二〇〇三年
- 馬淵美帆「絵巻の風俗表現と風俗画―言説と形象の視点から―」『美術史論叢』17 二〇〇一年
- 三島暁子「室町時代宮中御八講の開催とその記録―真字記と仮名記―」『武蔵文化論叢』2 二〇〇二年
- 水野僚子「一遍聖絵」の制作背景に関する一考察』『美術史』152 二〇〇二年
- 南谷 敬「志度寺縁起絵考」『待兼山論叢』美学篇 14 一九八〇年
- 源 豊宗「承安五節絵」『大和絵の研究』角川書店 一九七六年
- 「慕帰絵雑考」『源豊宗著作集 日本美術史論究』5 室町 思文閣出版 一九七九年
- 「文化庁保管・重要文化財 男山八幡宮曼荼羅図について」『MUSEUM』434 一九八七年 a
- 「近江名所図の伝統」『国華』1104 一九八七年 b

- 『扇面画(中世編)』、『日本の美術』320) 至文堂 一九九三年
- 『肖像画』(『日本歴史叢書』50) 吉川弘文館 一九九四年
- 『肖像画の視線』吉川弘文館 一九九六年^a
- 『宮廷画壇史の研究』至文堂 一九九六年^b
- 宮本常一『絵巻物に見る日本庶民生活誌』(中公新書) 中央公論社 一九八一年
- 村井章介『東アジア往還』朝日新聞社 一九九五年
- 持丸一夫「石山寺縁起と慕婦絵詞に現れた障屏画」『美術研究』169 一九五三年^a
- 「法然絵伝に現れた障屏画」『美術研究』171 一九五三年^b
- 守屋毅・熊倉功夫・佐藤豊三・中村利則・狩野博幸「シンポジウム 芸能史と美術史」『芸能史研究』80 一九八三年
- 守屋正彦『近世武家肖像画の研究』勉誠出版 二〇〇二年
- 森 理恵「真如堂縁起」にみる十六世紀初期の服飾の諸問題『仏教芸術』222 一九九五年
- 「キモノ美人」成立過程についての研究―「日本美術史(染織史)」の形成と日本画、和装界の動向―『イメ
ージ&ジェンダー』3 二〇〇二年
- 安田篤生「土佐派の犬追物図屏風について」『美術史』135 一九九四年
- 山内 譲「一遍聖絵」と伊予国岩屋寺』『中世の寺社と信仰』吉川弘文館 二〇〇一年
- 山下裕二「室町後期山水画論―「真景」の枠組み・内海のイメージ―」『国華』1201 一九九五年(のち『室町絵画の残
像』中央公論美術出版 二〇〇〇年に再録)
- 山田昭全『西行の和歌と仏教』明治書院 一九八七年
- 山本英男「雪舟筆天橋立図の作期について」『学叢』25 二〇〇三年
- 山本陽子『承安五節絵』の似絵性について―住吉内記系の模本による―『跡見学園女子大学紀要』35 二〇〇二年
- 湯之上隆「中世廻国聖と「社寺交名」』『日本中世の政治権力と仏教』思文閣出版 二〇〇一年
- 横田忠司「中世実景図研究―禅僧の語録・詩文集から見た諸相―」『日本美術襍稿』明德出版社 一九九八年
- 吉田友之「石山寺縁起絵」七巻の歷程』『日本絵巻大成』18 石山寺縁起 中央公論社 一九七八年
- 『土佐光信』(『日本美術絵画全集』5) 集英社 一九七九年
- 「絵巻物における図様の継承 石山寺縁起第五巻第一段の場合―」『芸術論究』12 一九八五年
- 米倉迪夫「西導寺蔵掛幅本「法然上人伝絵」について」『美術研究』316 一九八一年
- 「鎌倉時代の絵画―物語と景観と人の絵画をめぐって―」『日本美術全集』9 縁起絵と似絵 講談社 一九九
三年
- 『伝源頼朝像―沈黙の肖像―』(『絵は語る』4) 平凡社 一九九五年
- 「伝源頼朝像再考」『肖像画を読む』角川書店 一九九八年
- 「掛幅伝記絵研究の課題―法然伝絵から考える―」『仏教文学』24 二〇〇〇年
- 若桑みどり「書評 歴史としてのイメージ、イメージとしての歴史―黒田日出男『王の身体 王の肖像』―」『思想』834
一九九三年
- 「絵画を「読む」ということ―『湯女図』視線のドラマ』をめぐって―」『月刊百科』376 一九九四年
- 渡邊雄二「堅田への思慕とそのイメージ―中世末期の景観図の成立について―」『財団法人松ヶ岡文庫研究年報』15 二
〇〇〇年^a
- 「景観を見るまなざし―滋賀県立近代美術館蔵・近江名所図屏風の視点と背景―」『美術史論叢 造形と文
化』雄山閣出版 二〇〇〇年^b